

【表紙】

【提出書類】	四半期報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の7第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	平成25年8月9日
【四半期会計期間】	第134期第1四半期（自平成25年4月1日至平成25年6月30日）
【会社名】	エコナックホールディングス株式会社
【英訳名】	ECONACH HOLDINGS CO.,LTD.
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 奥村 英夫
【本店の所在の場所】	東京都港区南青山7丁目8番4号
【電話番号】	03(6418)4391(代表)
	(平成25年7月1日から本店を東京都中央区日本橋小伝馬町16番8号 共同ビルから上記に移転しております。)
【事務連絡者氏名】	取締役管理部長 菅原 勲
【最寄りの連絡場所】	東京都港区南青山7丁目8番4号
【電話番号】	03(6418)4391(代表)
【事務連絡者氏名】	取締役管理部長 菅原 勲
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 (東京都中央区日本橋兜町2番1号)

第一部【企業情報】

第1【企業の概況】

1【主要な経営指標等の推移】

回次	第133期 第1四半期連結 累計期間	第134期 第1四半期連結 累計期間	第133期
会計期間	自平成24年 4月1日 至平成24年 6月30日	自平成25年 4月1日 至平成25年 6月30日	自平成24年 4月1日 至平成25年 3月31日
売上高(千円)	248,575	236,660	927,626
経常利益(千円)	31,965	21,577	86,408
四半期(当期)純利益(千円)	25,943	13,109	89,303
四半期包括利益又は包括利益(千円)	30,228	21,052	106,489
純資産額(千円)	3,480,803	3,884,181	3,863,128
総資産額(千円)	4,488,681	4,961,913	4,800,873
1株当たり四半期(当期)純利益金額(円)	0.36	0.17	1.25
潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額(円)	-	0.17	1.25
自己資本比率(%)	72.4	73.1	75.3
営業活動によるキャッシュ・フロー(千円)	9,113	7,294	65,732
投資活動によるキャッシュ・フロー(千円)	6,253	223,491	167,118
財務活動によるキャッシュ・フロー(千円)	6,547	7,331	279,016
現金及び現金同等物の四半期末(期末)残高(千円)	733,363	1,457,783	1,248,917

(注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移につきましては記載しておりません。

2. 第133期第1四半期連結累計期間の潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

3. 売上高には、消費税等は含んでおりません。

2【事業の内容】

当第1四半期連結累計期間において、当社グループ(当社及び当社の関係会社)が営む事業の内容について、重要な変更はありません。また、主要な関係会社における異動もありません。

第2【事業の状況】

1【事業等のリスク】

当第1四半期連結累計期間において、新たな事業等のリスクの発生、または、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについての重要な変更はありません。

2【経営上の重要な契約等】

当第1四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

3【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

(1) 業績の状況

当第1四半期連結累計期間におけるわが国経済は、円安・株高基調で推移し企業収益や個人消費の一部に改善の動きが見られたものの、実体経済の回復にまでは至っておらず先行き不透明な状況が続きました。

このような状況の下、不動産事業では、新宿区の駐車場運営による収入及び港区西麻布のテナントビルの安定した賃料収入を得ることができましたが、平成24年11月に世田谷区代沢のテナントビルを売却したことにより前年と比べ賃料収入が減少しました。その結果、売上高は前年同四半期に比べ19.9%減少し48,766千円、営業利益は前年同四半期に比べ18.8%減少し37,587千円となりました。

繊維事業では、盛夏物・秋物の刺繍レースや大手ブランドの受注が好調であり、売上高は前年同四半期に比べ88.5%増加し23,837千円、営業利益は2,706千円（前年同四半期は営業損失858千円）となりました。

化粧品事業では、新規OEM受注先の開拓に取り組みましたが大きな成果は得られず、売上高は前年同四半期に比べ27.9%減少し64,192千円、営業利益は前年同四半期に比べ63.2%減少し1,367千円となりました。

ゴルフ場事業では、伊豆スカイラインカントリー倶楽部にて、4月から6月にかけていずれの月も来場者数が前年を上回ったことや、新規会員を獲得することができたことなどにより、売上高は前年同四半期に比べ16.1%増加し99,863千円、営業利益は前年同四半期に比べ70.6%増加し17,716千円となりました。

以上の結果、当第1四半期連結累計期間の売上高は236,660千円（前年同四半期比4.8%減）、営業利益は17,218千円（前年同四半期比17.3%減）、経常利益は21,577千円（前年同四半期比32.5%減）、四半期純利益は13,109千円（前年同四半期比49.5%減）となりました。

当第1四半期連結会計期間末の総資産は、立替金の増加などにより前連結会計年度末と比較して161,039千円増加し、4,961,913千円となりました。

負債は、未払金の増加などにより前連結会計年度末と比較して139,987千円増加し、1,077,731千円となりました。

純資産は、利益剰余金の増加などにより前連結会計年度末と比較して21,052千円増加し、3,884,181千円となりました。

(2) キャッシュ・フローの状況

当第1四半期連結会計期間末における現金及び現金同等物（以下「資金」という。）の残高は、前連結会計年度末に比べ、208,865千円増加し、1,457,783千円となりました。

当第1四半期連結累計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は、次のとおりであります。

（営業活動によるキャッシュ・フロー）

営業活動の結果使用した資金は、7,294千円（前年同四半期は9,113千円の獲得）となりました。これは、主に売上債権の増加や法人税等の支払額の増加によるものであります。

（投資活動によるキャッシュ・フロー）

投資活動の結果獲得した資金は、223,491千円（前年同四半期は6,253千円の使用）となりました。これは、貸付金の回収によるものであります。

（財務活動によるキャッシュ・フロー）

財務活動の結果使用した資金は、7,331千円（前年同四半期は6,547千円の使用）となりました。これは、主に長期借入金の返済によるものであります。

(3) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第1四半期連結累計期間において、当社グループが対処すべき課題について重要な変更はありません。

(4) 研究開発活動

該当事項はありません。

第3【提出会社の状況】

1【株式等の状況】

(1)【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	280,000,000
計	280,000,000

【発行済株式】

種類	第1四半期会計期間末 現在発行数(株) (平成25年6月30日)	提出日現在発行数 (株) (平成25年8月9日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	78,317,466	78,317,466	東京証券取引所 (市場第一部)	権利内容に何ら 限定のない当社 における標準と なる株式であり、 単元株式数は 1,000株でありま す。
計	78,317,466	78,317,466	-	-

(注)「提出日現在発行数」欄には、平成25年8月1日からこの四半期報告書提出日までの新株予約権の行使により発行された株式数は含まれておりません。

(2)【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4)【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(5)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式総 数増減数 (千株)	発行済株式総 数残高(千株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金増 減額(千円)	資本準備金残 高(千円)
平成25年4月1日～ 平成25年6月30日	-	78,317	-	3,374,765	-	149,940

(6) 【大株主の状況】

当四半期会計期間は第1四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

(7) 【議決権の状況】

当第1四半期会計期間末日現在の「議決権の状況」については、株主名簿の記載内容が確認できないため、記載することができないことから、直前の基準日（平成25年3月31日）に基づく株主名簿による記載をしております。

【発行済株式】

平成25年6月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	-	-	-
議決権制限株式(自己株式等)	-	-	-
議決権制限株式(その他)	-	-	-
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 32,000	-	-
完全議決権株式(その他)	普通株式 78,243,000	78,243	-
単元未満株式	普通株式 42,466	-	-
発行済株式総数	78,317,466	-	-
総株主の議決権	-	78,243	-

【自己株式等】

平成25年6月30日現在

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義所有 株式数(株)	他人名義所有 株式数(株)	所有株式数の 合計(株)	発行済株式総数に 対する所有株式数 の割合(%)
エコナックホールディングス株式会社	東京都港区南青山 7丁目8番4号	32,000	-	32,000	0.04
計	-	32,000	-	32,000	0.04

2 【役員の状況】

該当事項はありません。

第4【経理の状況】

1．四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号、以下「四半期連結財務諸表規則」という。）に基づいて作成しております。

なお、四半期連結財務諸表規則第5条の2第2項により、四半期連結キャッシュ・フロー計算書を作成しております。

2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第1四半期連結会計期間（平成25年4月1日から平成25年6月30日まで）及び第1四半期連結累計期間（平成25年4月1日から平成25年6月30日まで）に係る四半期連結財務諸表について、フロンティア監査法人による四半期レビューを受けております。

1【四半期連結財務諸表】

(1)【四半期連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成25年6月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,248,917	1,457,783
受取手形及び売掛金	97,602	115,560
商品及び製品	11,402	11,139
仕掛品	2,671	4,282
原材料及び貯蔵品	37,426	37,026
販売用不動産	305,160	306,304
短期貸付金	282,532	32,558
その他	45,054	198,168
貸倒引当金	6,345	4,263
流動資産合計	2,024,422	2,158,560
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	185,333	223,779
機械装置及び運搬具(純額)	37,710	39,751
工具、器具及び備品(純額)	14,857	14,114
コース勘定	362,224	362,224
土地	2,092,241	2,092,241
建設仮勘定	53,242	39,463
有形固定資産合計	2,745,610	2,771,574
無形固定資産		
のれん	11,702	10,532
電話加入権	2,086	2,086
ソフトウェア	360	328
無形固定資産合計	14,149	12,947
投資その他の資産		
投資有価証券	600	600
その他	28,606	27,118
貸倒引当金	12,515	8,887
投資その他の資産合計	16,691	18,830
固定資産合計	2,776,450	2,803,352
資産合計	4,800,873	4,961,913

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成25年6月30日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	18,851	21,893
1年内返済予定の長期借入金	26,714	26,714
未払法人税等	12,592	2,449
未払金	16,936	173,603
その他	54,191	49,330
流動負債合計	129,285	273,991
固定負債		
長期借入金	281,554	275,293
資産除去債務	2,789	2,805
再評価に係る繰延税金負債	46,331	46,331
長期預り金	442,813	441,213
その他	34,970	38,097
固定負債合計	808,458	803,740
負債合計	937,744	1,077,731
純資産の部		
株主資本		
資本金	3,374,765	3,374,765
資本剰余金	149,940	149,940
利益剰余金	7,979	21,088
自己株式	2,076	2,076
株主資本合計	3,530,608	3,543,717
その他の包括利益累計額		
土地再評価差額金	83,667	83,667
その他の包括利益累計額合計	83,667	83,667
新株予約権	6,211	6,211
少数株主持分	242,641	250,584
純資産合計	3,863,128	3,884,181
負債純資産合計	4,800,873	4,961,913

(2) 【 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書 】

【 四半期連結損益計算書 】

【 第 1 四半期連結累計期間 】

(単位 : 千円)

	前第 1 四半期連結累計期間 (自 平成24年 4 月 1 日 至 平成24年 6 月30日)	当第 1 四半期連結累計期間 (自 平成25年 4 月 1 日 至 平成25年 6 月30日)
売上高	248,575	236,660
売上原価	149,940	143,288
売上総利益	98,635	93,371
販売費及び一般管理費	77,809	76,153
営業利益	20,825	17,218
営業外収益		
受取利息	11,067	1,426
受取配当金	11	9
貸倒引当金戻入額	798	2,499
その他	3,551	4,327
営業外収益合計	15,428	8,263
営業外費用		
支払利息	2,270	2,282
有償見本費用	1,100	999
減価償却費	367	343
その他	550	279
営業外費用合計	4,288	3,904
経常利益	31,965	21,577
特別利益		
固定資産売却益	156	-
特別利益合計	156	-
特別損失		
固定資産除却損	171	0
特別損失合計	171	0
税金等調整前四半期純利益	31,950	21,577
法人税、住民税及び事業税	1,728	530
法人税等調整額	6	6
法人税等合計	1,721	524
少数株主損益調整前四半期純利益	30,228	21,052
少数株主利益	4,285	7,943
四半期純利益	25,943	13,109

【四半期連結包括利益計算書】
【第1四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年6月30日)
少数株主損益調整前四半期純利益	30,228	21,052
その他の包括利益		
その他の包括利益合計	-	-
四半期包括利益	30,228	21,052
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	25,943	13,109
少数株主に係る四半期包括利益	4,285	7,943

(3)【四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年6月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	31,950	21,577
減価償却費	10,115	9,011
のれん償却額	1,170	1,170
貸倒引当金の増減額(は減少)	4,166	5,709
賞与引当金の増減額(は減少)	610	-
受取利息及び受取配当金	11,078	1,436
支払利息	2,270	2,282
有形固定資産売却損益(は益)	156	-
有形固定資産除却損	171	0
売上債権の増減額(は増加)	15,769	17,958
たな卸資産の増減額(は増加)	21,773	2,092
仕入債務の増減額(は減少)	13,369	3,041
未払消費税等の増減額(は減少)	8,695	2,100
未収消費税等の増減額(は増加)	-	344
長期預り金の増減額(は減少)	1,530	1,600
その他の資産の増減額(は増加)	33,070	3,890
その他の負債の増減額(は減少)	7,593	479
小計	5,608	2,430
利息及び配当金の受取額	11,076	1,028
利息の支払額	2,270	2,282
法人税等の支払額	5,300	8,470
営業活動によるキャッシュ・フロー	9,113	7,294
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	10,500	26,483
有形固定資産の売却による収入	285	-
差入保証金の回収による収入	28	-
貸付金の回収による収入	3,932	249,974
投資活動によるキャッシュ・フロー	6,253	223,491
財務活動によるキャッシュ・フロー		
長期借入金の返済による支出	6,261	6,261
リース債務の返済による支出	286	1,070
財務活動によるキャッシュ・フロー	6,547	7,331
現金及び現金同等物の増減額(は減少)	3,686	208,865
現金及び現金同等物の期首残高	737,050	1,248,917
現金及び現金同等物の四半期末残高	733,363	1,457,783

【注記事項】

(四半期連結貸借対照表関係)

四半期連結会計期間末日満期手形

四半期連結会計期間末日満期手形の会計処理については、手形交換日をもって決済処理をしております。なお、当四半期連結会計期間末日が金融機関の休日であったため、次の四半期連結会計期間末日満期手形が四半期連結会計期間末日残高に含まれております。

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成25年6月30日)
受取手形	- 千円	438千円

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係は下記のとおりであります。

	前第1四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年6月30日)
現金及び預金勘定	733,363千円	1,457,783千円
現金及び現金同等物	733,363	1,457,783

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第1四半期連結累計期間(自平成24年4月1日至平成24年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

	不動産 (千円)	繊維 (千円)	化粧品 (千円)	ゴルフ場 (千円)	合計 (千円)
売上高					
外部顧客への売上高	60,883	12,645	89,017	86,029	248,575
セグメント間の内部売上高 又は振替高	-	-	107	-	107
計	60,883	12,645	89,125	86,029	248,683
セグメント利益又は損失()	46,282	858	3,716	10,383	59,523

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の内容(差異調整に関する事項)

利益	金額(千円)
報告セグメント計	59,523
のれんの償却額	1,170
全社費用(注)	37,526
四半期連結損益計算書の営業利益	20,825

(注) 全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報
該当事項はありません。

当第1四半期連結累計期間(自平成25年4月1日至平成25年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

	不動産 (千円)	繊維 (千円)	化粧品 (千円)	ゴルフ場 (千円)	合計 (千円)
売上高					
外部顧客への売上高	48,766	23,837	64,192	99,863	236,660
セグメント間の内部売上高 又は振替高	-	-	-	-	-
計	48,766	23,837	64,192	99,863	236,660
セグメント利益	37,587	2,706	1,367	17,716	59,378

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の内容(差異調整に関する事項)

利益	金額(千円)
報告セグメント計	59,378
のれんの償却額	1,170
全社費用(注)	40,990
四半期連結損益計算書の営業利益	17,218

(注) 全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報
該当事項はありません。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎、潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前第1四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年6月30日)
(1) 1株当たり四半期純利益金額	36銭	17銭
(算定上の基礎)		
四半期純利益金額(千円)	25,943	13,109
普通株主に帰属しない金額(千円)	-	-
普通株式に係る四半期純利益金額 (千円)	25,943	13,109
普通株式の期中平均株式数(千株)	71,145	78,285
(2) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額	潜在株式が存在しないため記載 していません。	17銭
(算定上の基礎)		
四半期純利益調整額(千円)	-	-
普通株式増加数(千株)	-	476
希薄化効果を有しないため、潜在株式調整後1株 当たり四半期純利益金額の算定に含めなかった 潜在株式で、前連結会計年度末から重要な変動が あったものの概要	-	-

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2【その他】

該当事項はありません。

第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

平成25年8月9日

エコナックホールディングス株式会社
取締役会 御中

フロンティア監査法人

指定社員 公認会計士 藤井 幸雄 印
業務執行社員

指定社員 公認会計士 遠田 晴夫 印
業務執行社員

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられているエコナックホールディングス株式会社の平成25年4月1日から平成26年3月31日までの連結会計年度の第1四半期連結会計期間（平成25年4月1日から平成25年6月30日まで）及び第1四半期連結累計期間（平成25年4月1日から平成25年6月30日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書、四半期連結キャッシュ・フロー計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、エコナックホールディングス株式会社及び連結子会社の平成25年6月30日現在の財政状態並びに同日をもって終了する第1四半期連結累計期間の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

(注) 1. 上記は、四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は四半期報告書提出会社が別途保管しております。

2. 四半期連結財務諸表の範囲には、XBRLデータ自体は含まれていません。